

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ままはぐ大阪福島事業所(児発)		
○保護者評価実施期間	R8年 2月 2日		R8年 2月 27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数) 4名
○従業者評価実施期間	R8年 2月 27日		R8年 2月 27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数) 4名
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 2月 27日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	散歩を通して、体力の向上を目指している	利用児童の年齢や体力、その日の状態に合わせて活動内容を検討している。	積極的に声掛けをして意思疎通が円滑に行われるようにしている。
2	育児の悩みや家庭での課題の相談	ご家族とグループLineで情報共有や業務連絡など適宜連絡をとり合うことが出来ている。	送迎時保護者へ引渡し時にコミュニケーションを密にとり安心して児童を預けて戴き継続利用して戴く。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域との交流が少ない。	地域での関わりはあるも、交流時間が合わず参加することが出来ていない。	地域との関わりを増やすために、地域で開催される交流会に徐々に参加して交流を深めていく。
2			
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名		ままはぐ大阪福島事業所（児発）		公表日		R8年 3月 10日		利用児童数		R8年 3月 3日		回収数 4名	
環境・体制整備	チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見		ご意見を踏まえた対応					
	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	4						基準に定められた広さ以上を確保している。				
2	職員の配置数は適切であると思いますか。	4				先生が増えて大変うれしいのですが、失礼ながら顔と名前を覚えるのが難しいので新しい先生が入ったときはお便りなどをいただけるとうれしいです。息子と家で先生の話をするのですが、息子の手話(指文字)表現に限界があり…(もちろん可能な範囲で結構です)		基準に定められた人員を確保し配置してあるも利用児童の特性や人数に応じて配慮出来るように努めている。					
3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	3						身体的に不自由な条件の方へも対応可能なようにバリアフリーになっている。視覚障害のある方へは安全に歩行出来るように床や足元を物を置かず、職員が声かけや見守りを行っている。					
4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	4						活動で使用した道具や室内、車内の清掃消毒は毎日実施。エアコンの掃除や活動中の換気や温度設定、加湿などの感染対策も実施している。					
適切な支援の提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	4					日々の様子やアセスメントを基に、児童一人ひとりの課題に合う支援方法を提供出来るよう共有している。					
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	4					R7年3月ワムネットへ。					
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	4						R7年9月アセスメント様式の見直しをし、ニーズや課題の分析を個別支援計画へ反映できるように作成。				
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	4						R6年度よりガイドラインに沿った必要な項目を設定し個別支援計画の策定を実施している。				
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	4						日々の記録に於いて計画書を傍に置き確認しながら支援を行っている。その日の状況で計画内容や支援との相違が出る場合があるため、計画内容を実際の支援に沿えるよう共有方法を検討していく。				
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	4						年間計画を月・日へと活動内容を実施しているが、繰り返し行う支援もあり固定化している場合がある。利用児童毎々に合わせた工夫出来るようになっていく。				
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	3	1					挨拶を交わす程度で、イベント等での交流は出来ていない。今後機会が持てるようになっていく。				
保護者への説明等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	4					重要事項説明書の内容が運営規定となっており契約時に説明している。支援プログラムはR7年3月に公表。					
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	4					モニタリング結果と共に計画書の目標欄の説明をし、不明な点や疑問などがあれば常時ご意見を載けるようにお伝えしている。					
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	2			2			ご家族に対してのプログラムの準備はなされていないが、今後イベント等の開催時にはLineや書面でお知らせをしていく。研修会などの情報提供も同様に実施していく。				
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	4						個別支援計画に基づき利用児童の特性や課題について今日有理解を得ている。その日の状態については送迎時にLineや電話を利用して連絡を密に取っている。気になることは適宜連絡を受けている。				
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	2		1	1			送迎時やLine、電話で相談。面談での相談など随時受け付けている。保護者や利用児童の不安や疑問が解決できるようにしている。				
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	4						集団活動を中心に目標を目指し一人ひとりの課題に応じた支援を実施している。				
18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	1	1	1	1			父母会や保護者会の開催は出来ていないが、今後家族(兄弟や保護者)参加型のイベントなど交流会・講演会で相談や面談を行っていく。					

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	3			1		ご意見やご要望などがあった場合、早期解決できるように心掛けて、疑問や不安が解消出来るようにしている。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	4					利用児童の特性に合わせ、視覚・聴覚の情報に応じて支援する様にしており、保護者への連絡はLineや電話、SNSを使い分けて複数回お知らせ出来るようにしている。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	4				・スタッフの方のお名前が全員わからないので情報(紹介)頂けると嬉しいです。	スタッフの増員や入れ替わりなどあり、その都度写真やイラスト等でお知らせしていく。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	4					繊細な内容の為に丁寧に取り扱い、職員と同意書を交わし派遣の方々とも個人情報の注意事項に同意載っている。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	4					厚生労働省、子ども家庭庁の通知に従い各種マニュアルを整備し、契約時や調整時に適宜説明を行っている。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	3			1		非常災害時用リュックを事業所で準備し、避難訓練は地震と火災を想定して年2回実施している。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	4					安全計画、防犯安全対策指針マニュアルを配備している。今後安全計画についてHPなどで公開し、防犯訓練を年1回実施していく。
	26	事故等(怪我等を含む。)が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	3			1		体調不整や怪我等など利用児童の変化について、送迎や発生時に口頭やLineや電話で連絡している。連絡がつかない場合は重ねて連絡する事があるため契約時やそれ以降も説明を行っている。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	4				・そう思います。	利用児童が安心して過ごせる場所として、今後も職員の整備、利用児童の特性や年齢に配慮出来るようにしていく。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	4				・家に帰るのを渋るくらい毎回楽しみにしています!!	利用児童の成長に伴い、気持ちに波があるようだが笑顔で過ごせられている。
	29	事業所の支援に満足していますか。	4				・とても満足しています、ありがとうございます!! ・楽しいイベントや活動、リハビリなどいつもありがとうございます。	日頃から事業所の運営にご理解とご協力をいただき感謝している。利用児童の自立に向け今後もより良い支援が提供できるように邁進していく。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	ままはぐ大阪福島事業所(児発)				公表日	R8年 3月 10日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8		・スペースが広い、子どもが狭い所を通ったりするのでスペースを広げる工夫が思う。	基準に定められた以上のスペースを確保している。今後落ち着けるスペースの確保を検討していく。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の数配置は適切であるか。	8		・子どもの人数に合わせてスタッフが配置されているのでよいと思う。	基準で定められた児童指導員と加配の指導員を配置しているが、児童の特性や人数に応じて配置数を考慮していく。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6	2	・子どもの情報共有ができていない時がある。	フロアは全てバリアフリーになっている。児童の特性に応じた環境整備は今後も継続が必要。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8		・空間が広いことで子どもの遊べるスペースが多いのでよいと思う。	コンクリートの床全体に直にカーペットが敷かれている。素材が硬く転倒した場合、二次的な被害を回避するため児童が活動する場所にクッションマットを敷いている。日々の手入れは掃除機をかけたマット上を清拭し清潔を保っている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6	2	・今後は必要に応じていると思う。 ・事務処理しているところに子どもが興味をもち、入ってはいけない所に入ろうとするので工夫が必要。	一人で落ち着ける場所を作るためパーティションで区切るなど工夫している。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6	2	・PDCAサイクルを使っているのかしららない。	職員の対応については課題があるため改善が必要。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	2	・評価表があることを知らない。話し合いもない。	支援内容は、個々の児童のニーズに合わせて提供できるように連絡を密に行っている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	1	・会議などでその場をもうけていると思う。 ・始めたばかりでまだ起動のついでない。	事業所内で常に話題に上げて、業務改善につなげている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5	3	・評価しているのかわからない。 ・外部評価しているのかわからないので「いいえ」にしました。 ・外部評価しているのかわからないので「いいえ」にしました。	第三者評価には行ってないが、本部機能を活用し相談援助を受けている。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5	3	・案内があれば機会があってもいいと思う。 ・研修があってもやすすめるかわからない。	行政からの案内などを活用し行ける機会を利用して参加している。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6	2	・公表されていない。	今後も内容を検討して実施していく。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	6	2	・計画書知らない。	R7年9月よりアセスメント様式を見直し、ニーズや課題をより分かり易く出来るように個別支援計画に反映出来るように工夫している。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5	3	・共有していないので分からない。	常時話し合いや報告を行っている。個々の児童について角度を変えた意見も検討している。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6	2	・共有されていない。	利用時の支援内容と計画書の内容に開きがあることがあるため今後検討していく。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6	2	・ツールがあることを知らず、自分で次はこうしようとアセスメントしている。	保護者、家庭、利用児の変化などに応じ、支援経過に記録している。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7	1	・計画書知らない。	地域連携に於いて児童と関係する機関が其々異なり、密に連携が取れている所とそうではない所に差を感じる。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4	4	・チームで行っていない。 ・チームで行っているのかわからないので「いいえ」にしました。 ・チームで行っているかわからないので「いいえ」にしました。	職員が其々意見を出し合い、立案、行事の準備などチームで協力して行っている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7	1	・たいがい固定している感じがする。 ・子どものやりたいに合わせたりと、その子に合った活動、必要な活動をしていると思います。	季節に合わせて行ってる。利用児個々の成長に沿って工夫している。	

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	7	1	・こどもの状況で活動内容を変えている。	集団活動の中でルールを学んだり、其々の年齢や成長に合わせた内容で活動する等の工夫をしている。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4	4	・重要なことは職員間で共有していると思う。 ・個別になっており、チームとして活やくしてない。 ・午後からの勤務が多いため開始前の様子がわかりません。 ・午後からの勤務が多いため開始前の様子がわかりません。	担当表を用いて、支援に支障のないようにしている。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4	4	・あれば共有はしている。Lineなど。 ・話し合いの場を設けていない。	役割分担をして記録している。Lineで保護者へ送りファイリングをして残して、職員間で振り返りを行っている。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6	2	・分らない。	日々の記録を取り職員間でその日の状態を振り返りを行っている。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7	1	・しているのか知らない。	保護者との面談時に利用児童の日常での様子を伺い6カ月以内のモニタリングを行っている。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7	1	・分からない。	“4つの基本活動” ①日常生活の充実と自立支援のための活動 ②多様な遊びや体験活動 ③地域交流の活動 ④こどもが主体的に参画出来る活動。これらを合わせた支援活動を実施している。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8		・たぶんしていると思う。	近隣のCLと連携を取り毎月1回訪問を継続して必要時相談をし、アドバイスを受けている。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6	1	・他との共有をしているのか知らない。	併行利用のケースがあり、移行までに保護者を中心に施設間も含め情報共有は行っている。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7	1	・情報の共有はしている。 ・まだ移行した子がいないため。	利用児童が通っている幼稚園や他施設と連携を取り情報共有している。現時点で就学へ移行の該当児童はいない。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	3	5	・わかりません。 ・わかりません。	児童発達支援センターでのスーパーバイズではなく、系列の事業所内で連携を取り助言など行っている。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	4	4	・機会があれば活動する機会があってもいいと思う。 ・わかりません。	挨拶程度は出来ているが、利用時間の中で地域の保育所等との交流は出来ていない。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7	1	・連絡帳や送りの時にしている。	連絡帳であったりLineや電話、送迎時に報告を密に行い情報共有している。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	3	・今後機会があればしてもいいと思う。	ご家族向けのプログラムの準備はなされていないが、今後イベントなどの開催時にはLineや書簡でお知らせしていく。研修会や情報提供も同時に実施していく。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7	1		運営規定に記載されている内容を示している重要事項説明書を契約時に保護者へ説明し同意を得ている。
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点から、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7	1		保護者からの意向を確認し、実施している。利用児童で計画の内容が理解出来て意思表示出来る児童がいない。	
37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	7	1		必ず説明をして同意を得ている。	
38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7	1		利用時、Lineや電話で相談。面談での相談など随時受け付けている。保護者や利用児童の不安や疑問が解決できるようにしている。	

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	6	2	・必要があればともいえると思う。	父母会や保護者会の開催は出来ていないが、今後ご家族(兄弟や保護者)参加型のイベントなど交流会・講習会で相談や面談を行う事が出来る。
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8		・保護者からすると知りたい情報なので、上の立場の方がしている。	ご相談があった場合には、迅速に対応し、早期に解決できるようにしている。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	7	1	・できている時、できていない時がある。	スタッフの増員や入れ替わりなどがあるため、その都度写真やイラストなどでお知らせ出来るようにしていく。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8			繊細な内容のため個人情報の取扱いは十分理解している。
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4	4		行事に地域住民の招待は出来ていないが、今後ボランティアや実習生の受入も検討していく。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7	1		各種マニュアルを策定しスタッフに研修を周知し、避難訓練・防犯訓練について、保護者へも都度周知している。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7	1		避難訓練やBCP訓練を定期的に行っている。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	8			服薬やてんかん発作の状況を確認し、発作時の対応など保護者に確認し共有している。
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8			食事などの提供は行っていない。症状など必要に応じて対応している。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7	1		安全計画を策定し、研修・訓練を年1回以上実施。安全確認も毎月実施している。
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7	1		安全計画について家族に周知し、R7年以降はワムネットに掲示している。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8			ヒヤリハット事例について職員全体で周知し、再発防止に検討している。
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7	1		職員間で共有している。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	6	2		身体拘束適正化のため、指針やマニュアルを整備し、現在該当者はいないが該当する場合は計画書に記載し話し合うこととする。	